

景気動向調査 報告書

2026 年 4－6 月期実績
館山商工会議所

【目 次】

I	調査方法と回答企業の概要	1
II	調査結果の概要について	2
III	製造業の景況	4
IV	建設業の景況	6
V	小売業の景況	8
VI	卸売業の景況	10
VII	飲食業の景況	12
VIII	サービス業の景況	14
IX	観光業の景況	16
	まとめ	18

I 調査方法と回答企業の概要

1 調査方法

この景気動向調査は館山市の企業を対象として、2026年7月に実施したものである。調査方法はFAXによる無記名の調査票(アンケート)回収方式である。

今回の調査票発送数、回答数、回答率は以下の通りである。

<調査回収状況>

業種	発送数（件）	回答数（件）	回答率	(参考)前回回答率
工業	18	7	38.9%	61.1%
製造業	8	4	50.0%	75.0%
建設業	10	3	30.0%	50.0%
商業	47	23	48.9%	59.6%
小売業	21	13	61.9%	71.4%
卸売業	4	2	50.0%	50.0%
飲食業	4	0	0.0%	50.0%
サービス業	13	7	53.8%	69.2%
観光業	5	1	20.0%	0.0%
合計	65	30	46.2%	60.0%

2 DIの意味【設問1】

景況を表すDIとはデフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、良くなったとする企業数(A)から、悪くなったとする企業数(B)を差し引いた数の全体に対する比率である。

工業関連企業（製造業・建設業）

商業関連企業（小売業・卸売業・飲食業・サービス業・観光業）

	A			B		
売上高	①増えた	②横ばい	③減った			
採算(経常利益)	①増えた	②横ばい	③減った			
引き合い	①増えた	②横ばい	③下がった			
受注・製品単価	①上がった	②変わらない	③減った			
在庫(製品)	①過剰になった	②変わらない	③不足になった			
資金繰り	①楽になった	②変わらない	③苦しくなった			
雇用者数	①増やした	②変わらない	③縮小した			
設備投資	①増やした	②変わらない	③縮小した			
今後の見通し(売上)	①良くなる	②変わらない	③悪くなる			

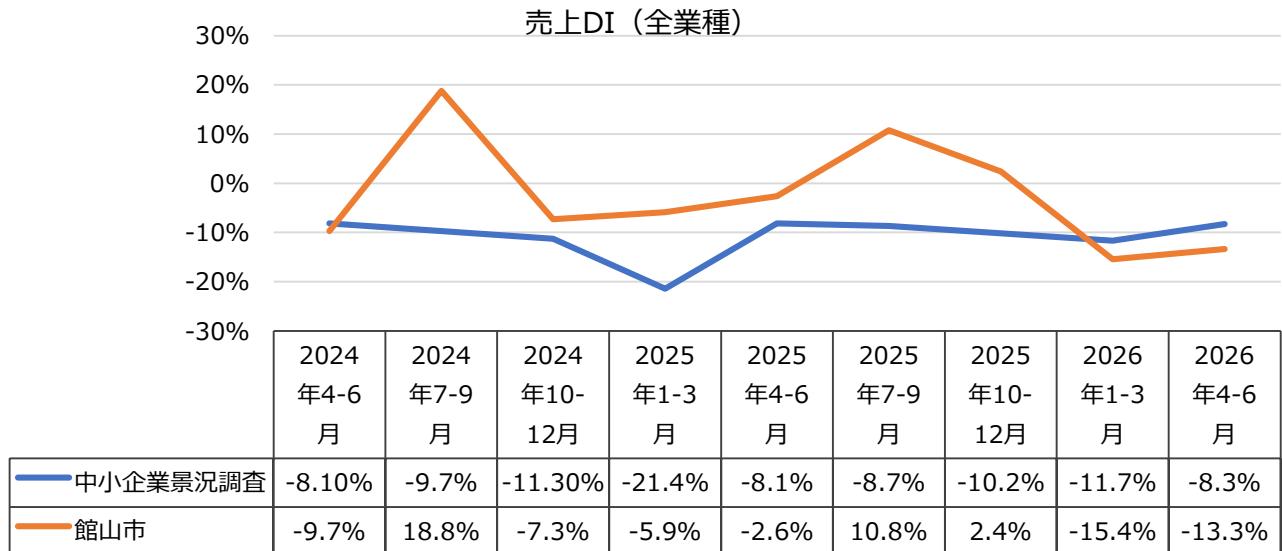
	A			B		
売上高	①増えた	②横ばい	③減った			
採算(経常利益)	①増えた	②横ばい	③減った			
客数	①増えた	②横ばい	③減った			
客単価	①増えた	②横ばい	③減った			
経費	①減った	②横ばい	③増えた			
資金繰り	①楽になった	②変わらない	③苦しくなった			
雇用者数	①増やした	②変わらない	③縮小した			
金融機関の融資状況	①容易になった	②変わらない	③困難になった			
今後の見通し(売上)	①良くなる	②変わらない	③悪くなる			

II 調査結果の概要について

1 売上高の状況

(1)全国および千葉県との比較

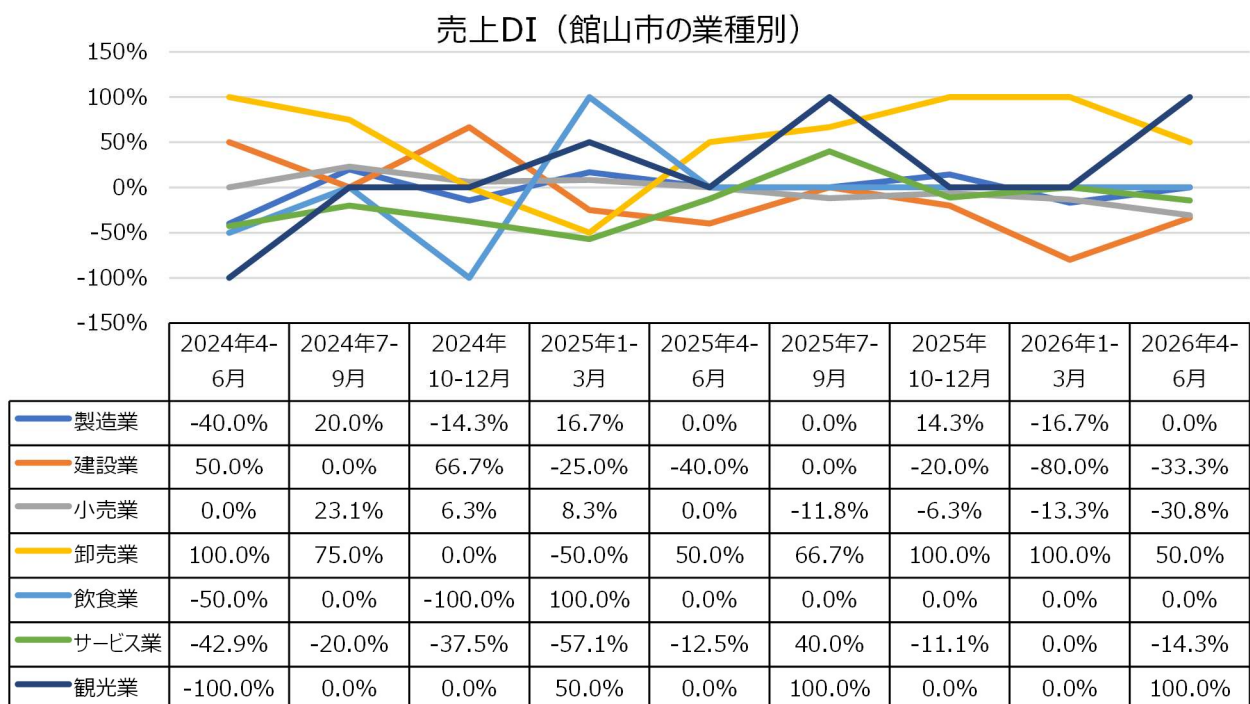
館山市の全業種の売上 DI は前回調査より 2.1 ポイント上昇し、▲13.3%となった。中小企業景況調査（中小機構・全国調査）（▲8.3%）と比べると 5 ポイント低い。



(2)業種別

館山市の業種別の売上 DI は、工業関連企業においては、製造業が 16.7 ポイント上昇し 0.0%、建設業が 46.7 ポイント上昇し▲33.3%となった。商業関連企業においては、小売業が 17.5 ポイントの下降、卸売業が 50.0 ポイントの下降、サービス業が 14.3 ポイントの下降となっている。

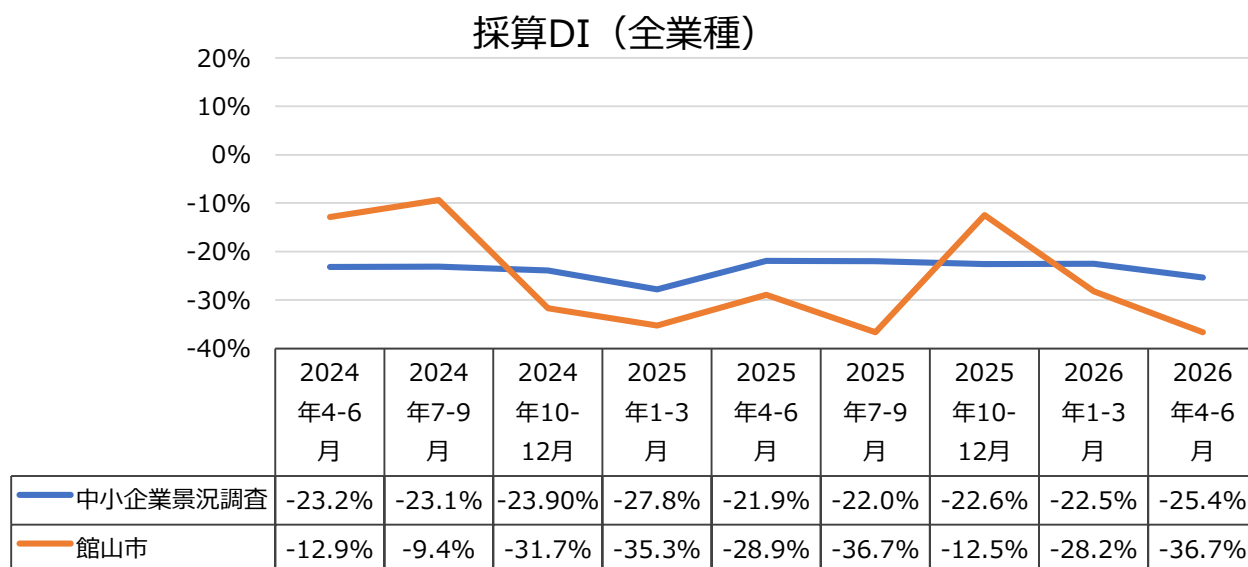
なお、飲食業は無回答のため算出不可だった。



2 採算の状況

(1)全国および千葉県との比較

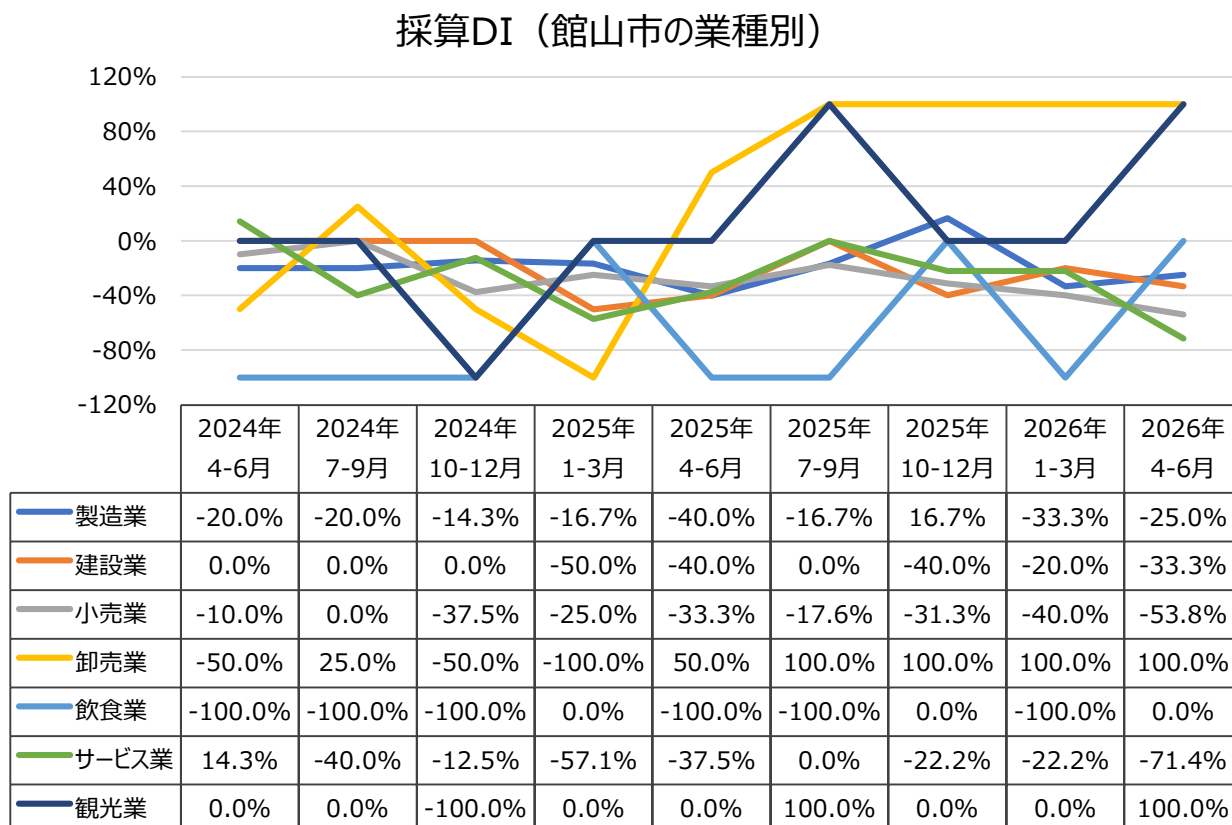
館山市の全業種の採算 DI は、前回調査より 8.5 ポイント下降し、▲36.7%となった。中小企業景況調査（中小機構・全国調査）（▲25.4%）と比べると、11.3 ポイント低くなっている。



(2)業種別

館山市の業種別の採算 DI は、工業関連企業においては、製造業は 8.3 ポイント上昇、建設業は 13.3 ポイント下降した。商業関連企業においては、小売業が 13.8 ポイント下降、サービス業が 49.2 ポイント下降し▲71.4%、卸売業は横ばいだった。

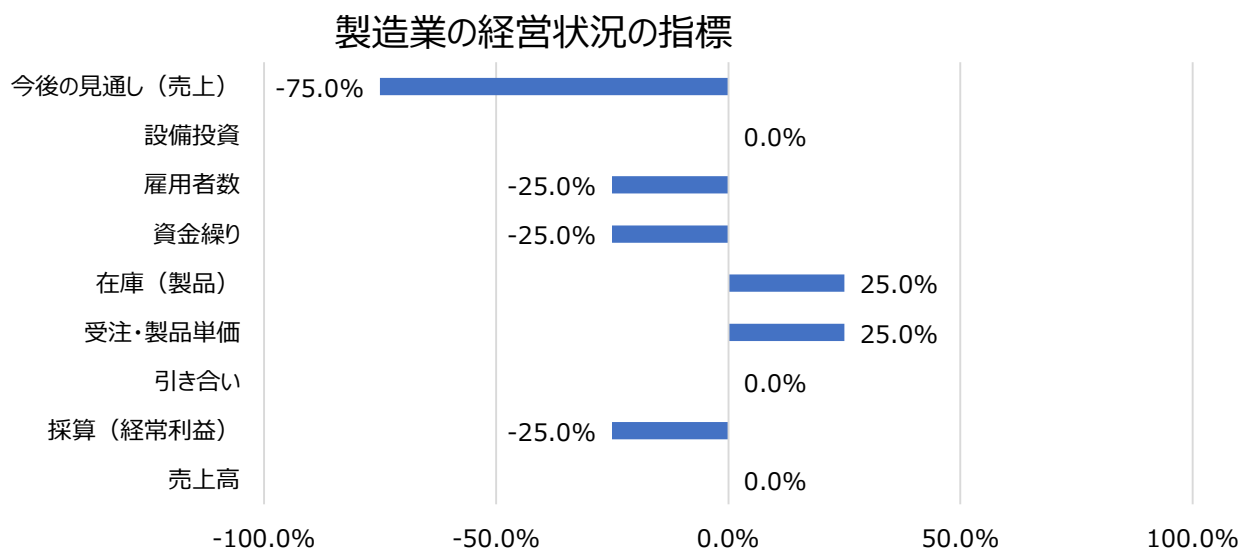
なお飲食業については無回答のため、算出不可だった。



III 製造業の景況

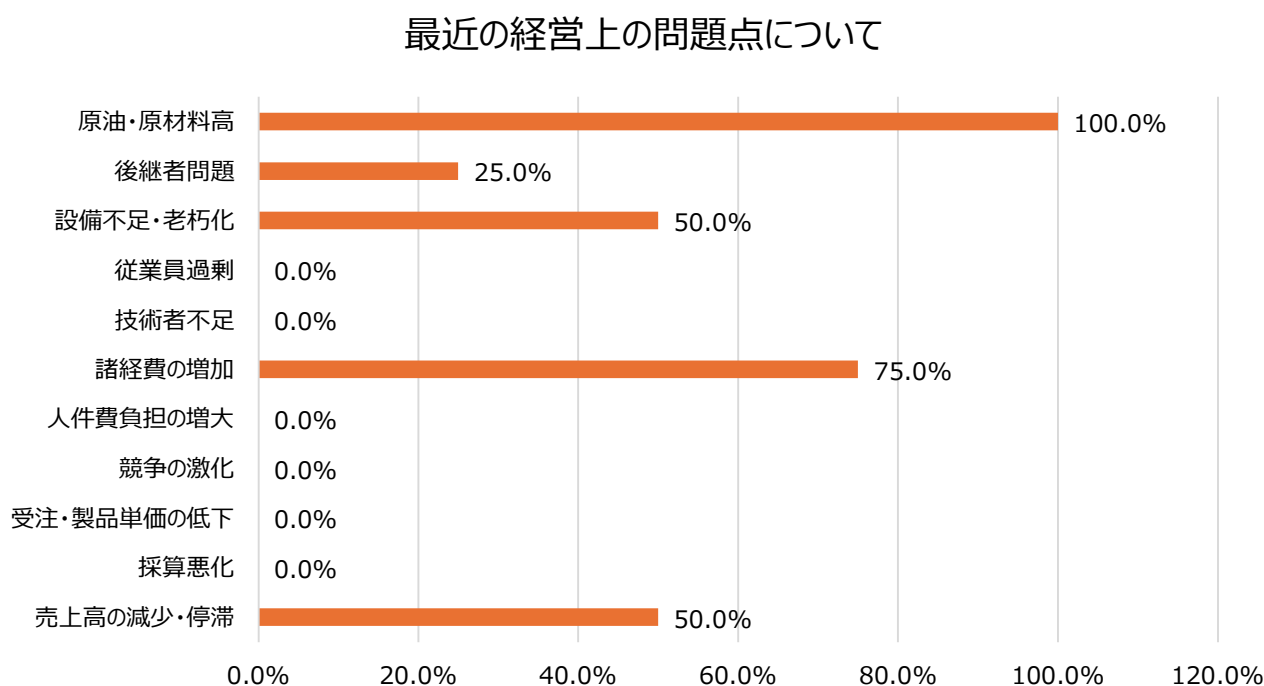
1 製造業の経営状況の指標

各種 DI をみると「今後の見通し（売上）」の DI は今回調査では▲75.0%と大きなマイナスとなり、「雇用者数」「資金繰り」「採算（経常利益）」がそれぞれ▲25%だった。「在庫（製品）」「受注・製品単価」については、25%だった。



2 製造業の最近の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

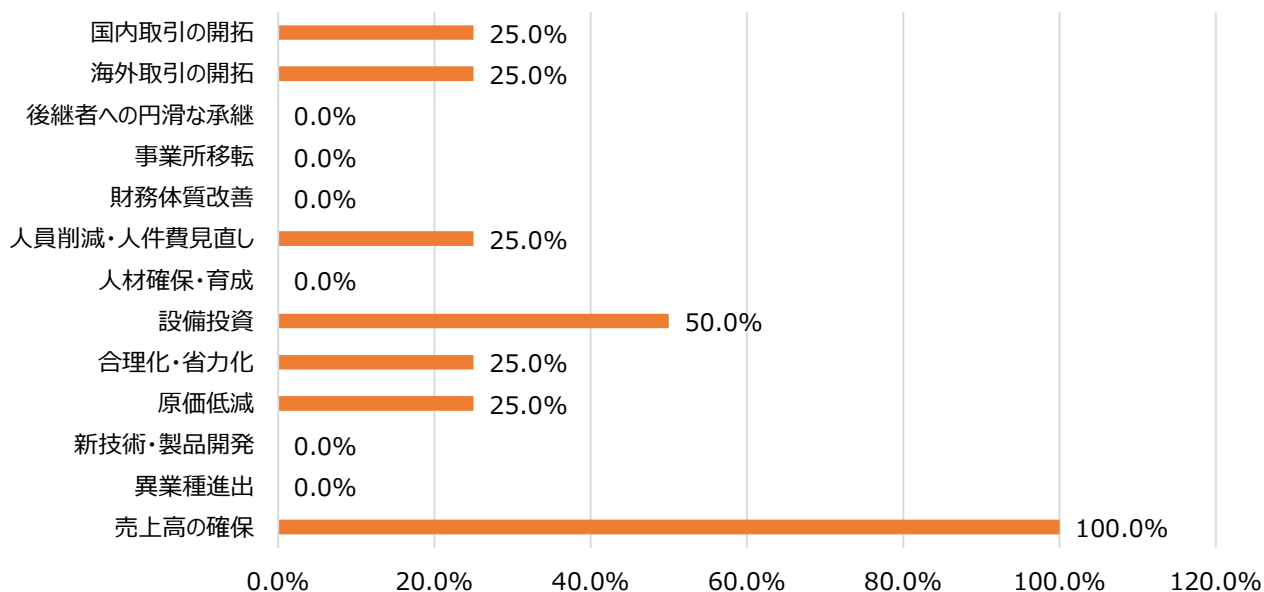
全体では「原油・原材料高」が 100.0%と最も高く、「諸経費の増加」が 75.0%、「設備不足・老朽化」「売上高の減少・停滞」が 50.0%、「後継者問題」が 25.0%と続いている。



3 今後の製造業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「売上高の確保」が 100.0%と最も高く、「設備投資」が 50.0%、「国内取引の開拓」「海外取引の開拓」「人員削減・人件費見直し」「合理化・省力化」「原価低減」が 25.0%だった。

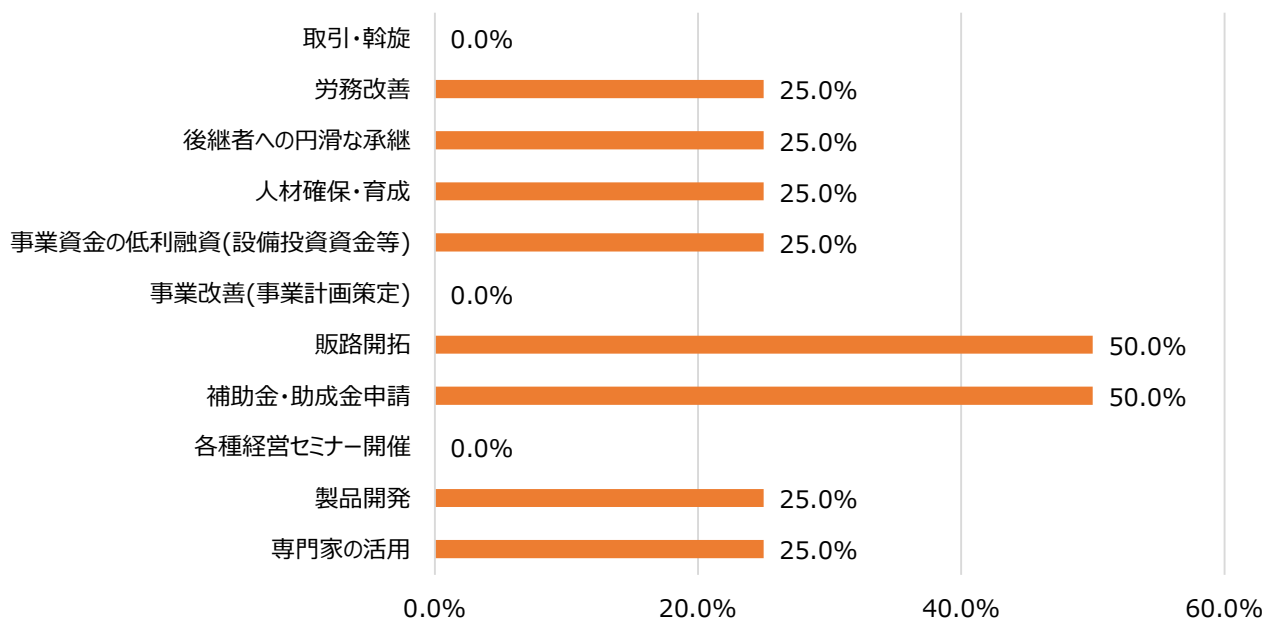
今後の経営課題について



4 今、製造業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「販路開拓」「補助金・助成金申請」が 50.0%と最も高く、「労務改善」「後継者への円滑な承継」「人材確保・育成」「事業資金の低利融資（設備投資資金等）」「製品開発」「専門家の活用」が 25.0%と続いている。

今後、希望する支援・施策

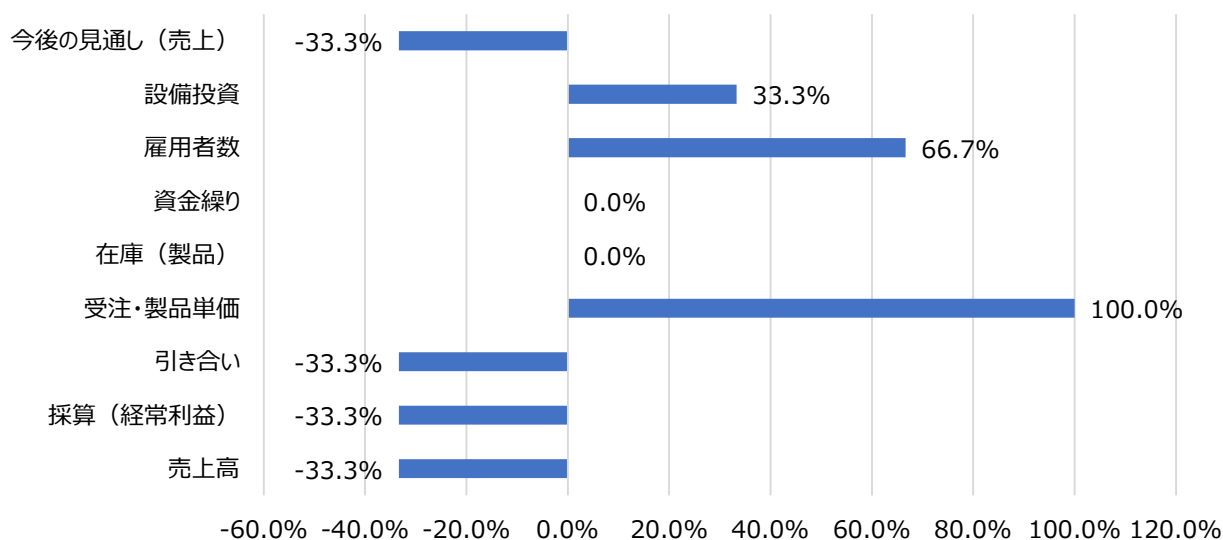


IV 建設業の景況

1 建設業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「受注・製品単価」の DI が 100.0%と最も高く、「雇用者数」が 66.7%、「設備投資」が 33.3%となっているが、「今後の見通し（売上）」「引き合い」「採算（経常利益）」「売上高」については▲33.3%だった。

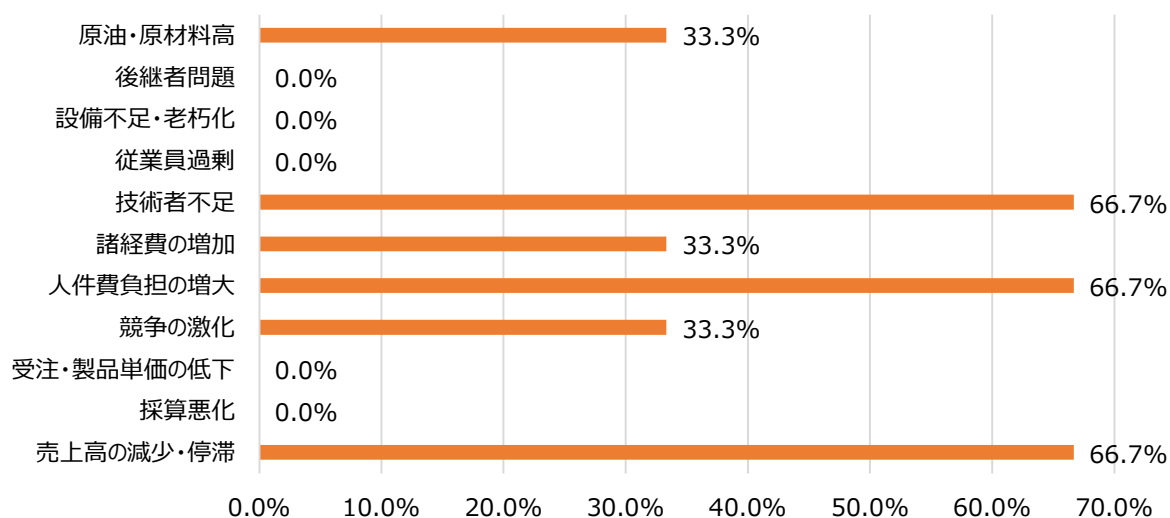
建設業の経営状況の指標



2 建設業の最近の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「技術者不足」「人件費負担の増大」「売上高の減少・停滞」が 66.7%と最も高く、「原油・原材料高」「諸経費の増加」「競争の激化」が 33.3%と続いている。

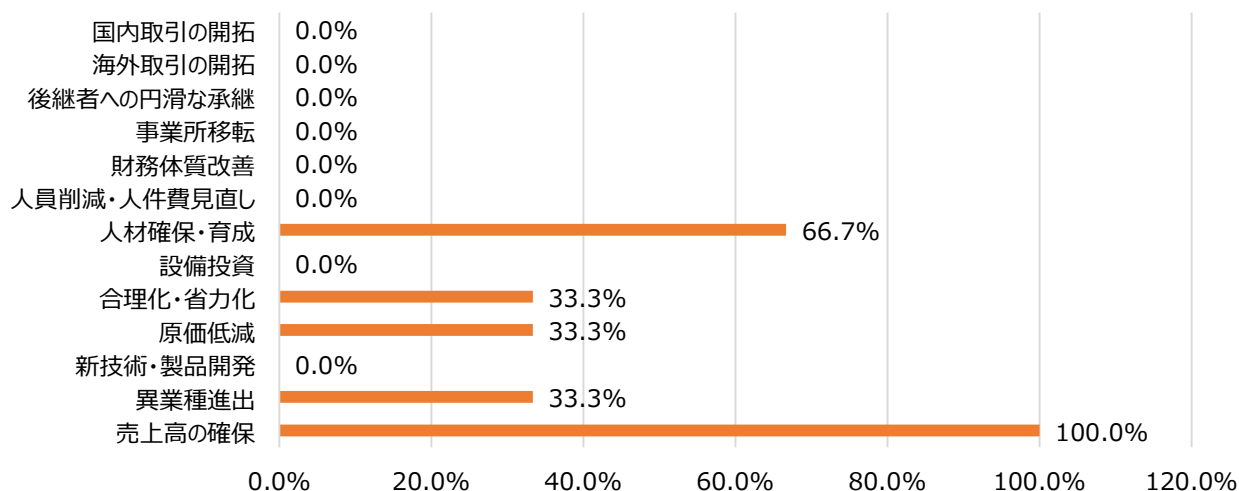
最近の経営上の問題点について



3 今後の建設業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では「売上高の確保」が 100.0%と最も高く、「人材確保・育成」が 66.7%、「合理化・省力化」「原価低減」「異業進出」が 33.3%だった。

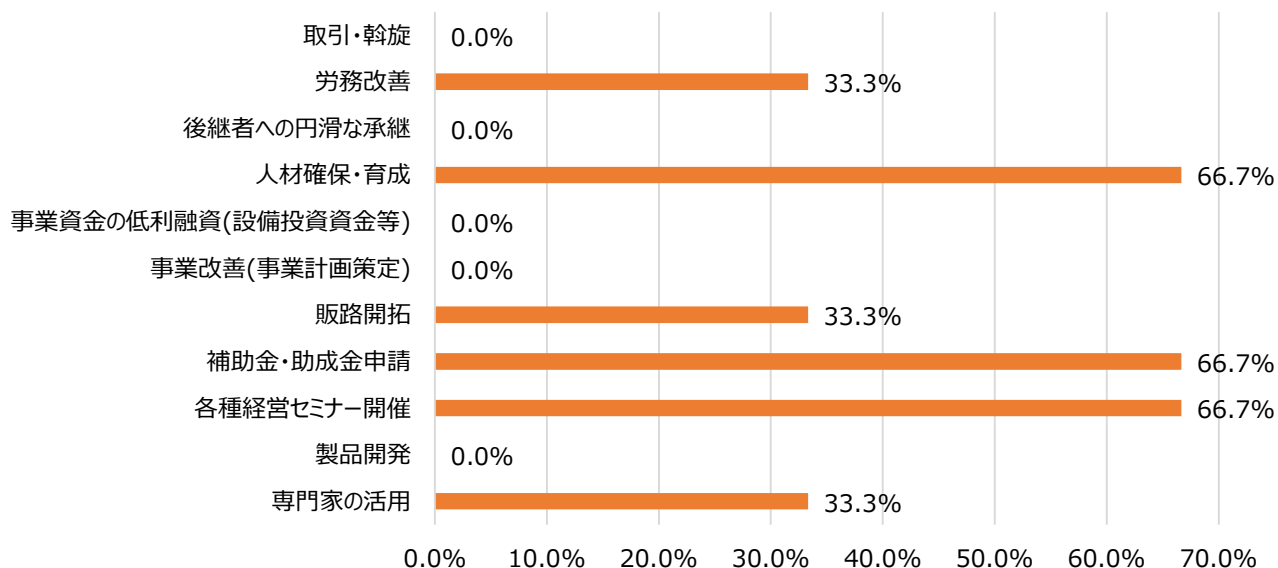
今後の経営課題について



4 今、建設業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「人材確保・育成」「補助金・助成金申請」「各種経営セミナー開催」が 66.7%と最も高く、「労務改善」「販路開拓」「専門家の活用」が 33.3%と続いている。

今後、希望する支援・施策

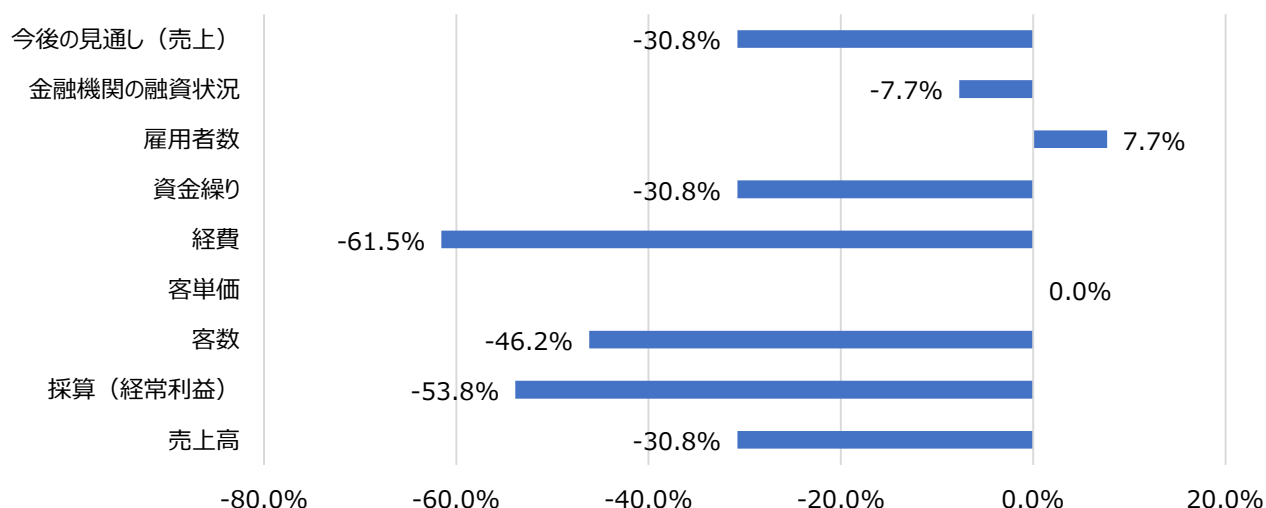


V 小売業の景況

1 小売業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「経費」が▲61.5%、「採算（経常利益）」が▲53.8%、「客数」▲46.2%、「今後の見通し（売上）」「資金繰り」▲30.8%となっており、今回プラスの DI は「雇用者数」7.7%のみであった。

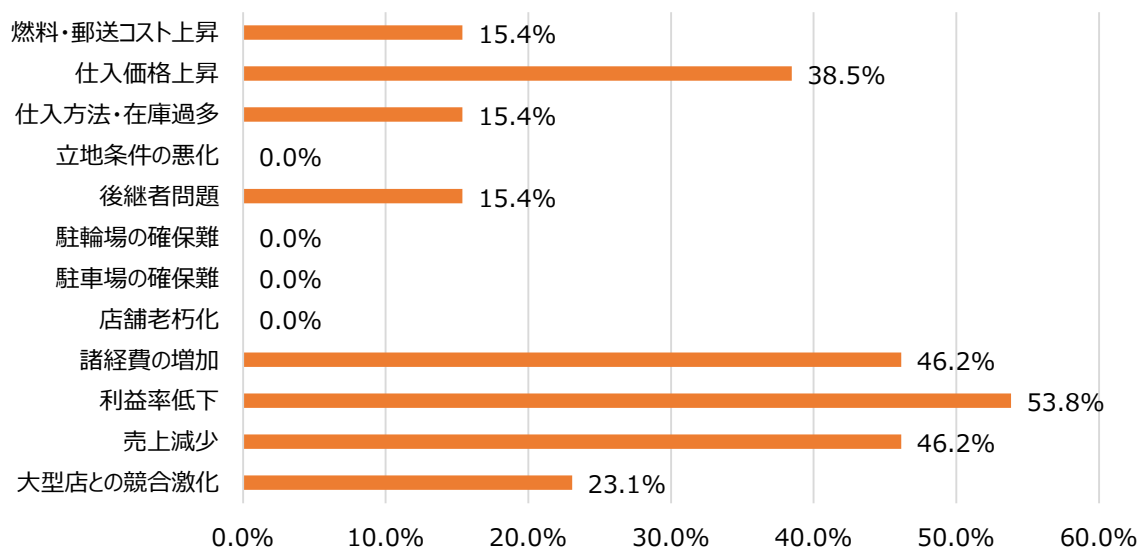
小売業の経営状況の指標



2 最近の小売業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「利益率低下」が 53.8%と最も高く、次に「諸経費の増加」「売上減少」が 46.2%、「仕入価格上昇」が 38.5%、「大型店との競合激化」が 23.1%、「燃料・郵送コスト上昇」「仕入方法・在庫過多」「後継者問題」が 15.4%と続いている。

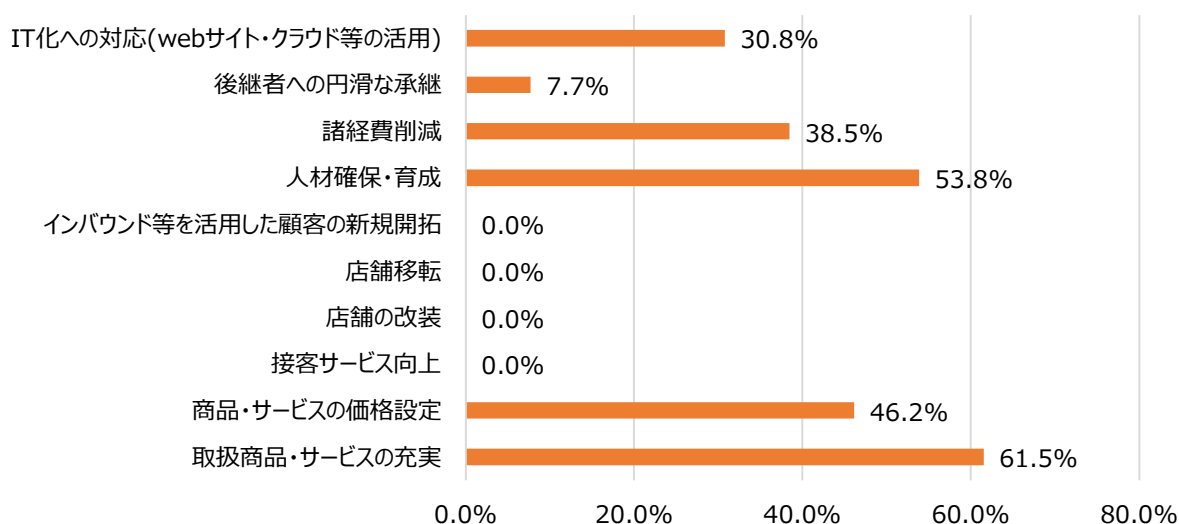
最近の経営上の問題点について



3 今後の小売業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「取扱商品・サービスの充実」が 61.5%と最も高く、「人材確保・育成」が 53.8%、「商品・サービスの価格設定」が 46.2%、「諸経費削減」が 38.5%、「IT 化への対応（web サイト・クラウド等の活用）」が 30.8%、「後継者への円滑な承継」が 7.7%だった。

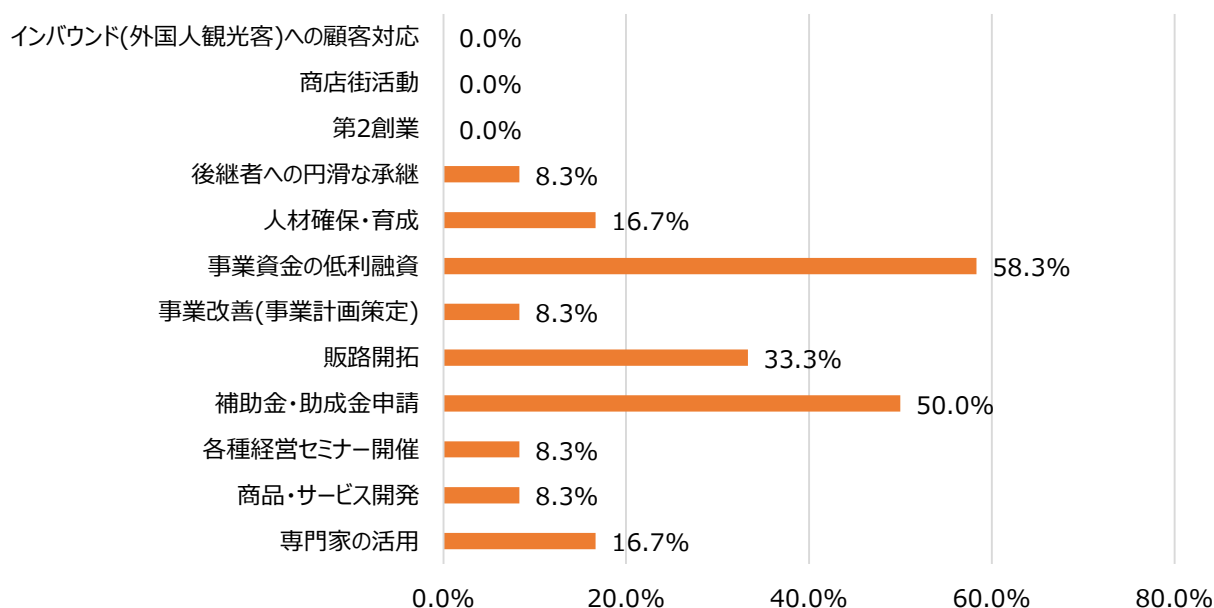
今後の経営課題について



4 今、小売業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「事業資金の低利融資」が 58.3%と最も高く、「補助金・助成金申請」が 50.0%、「販路開拓」が 33.3%、「人材確保・育成」「専門家の活用」16.7%、「後継者への円滑な承継」「事業改善（事業計画策定）」「各種経営セミナー開催」「商品・サービス開発」が 8.3%と続き、様々な支援・施策を必要としている。

今後、希望する支援・施策

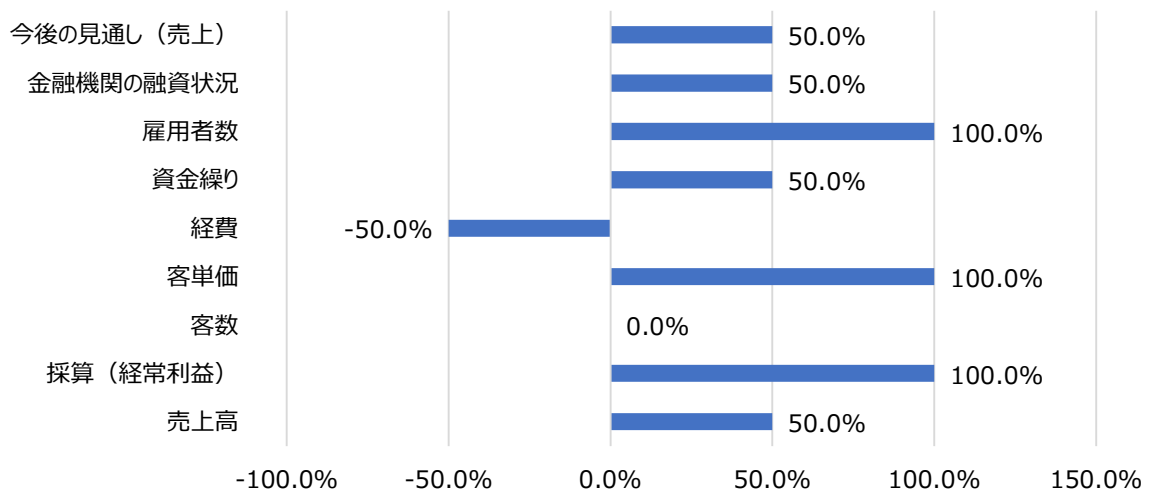


VI 卸売業の景況

1 卸売業の経営状況の指標

各種 DI をみると「雇用者数」「客単価」「採算（経常利益）」の DI は今回調査で 100.0%となり、「今後の見通し（売上）」「金融機関の融資状況」「資金繰り」「売上高」が 50.0%と続いている。また、「経費」の DI は▲50.0%で、唯一マイナスだった。

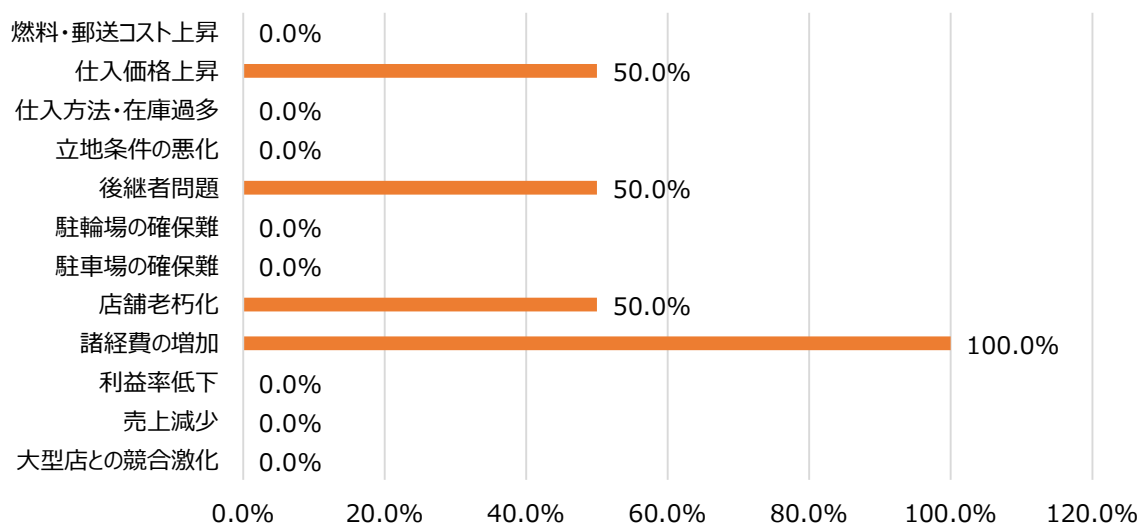
卸売業の経営状況の指標



2 最近の卸売業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「諸経費の増加」が 100.0%と最も高く、「仕入価格上昇」「後継者問題」「店舗老朽化」が 50.0%と続いている。

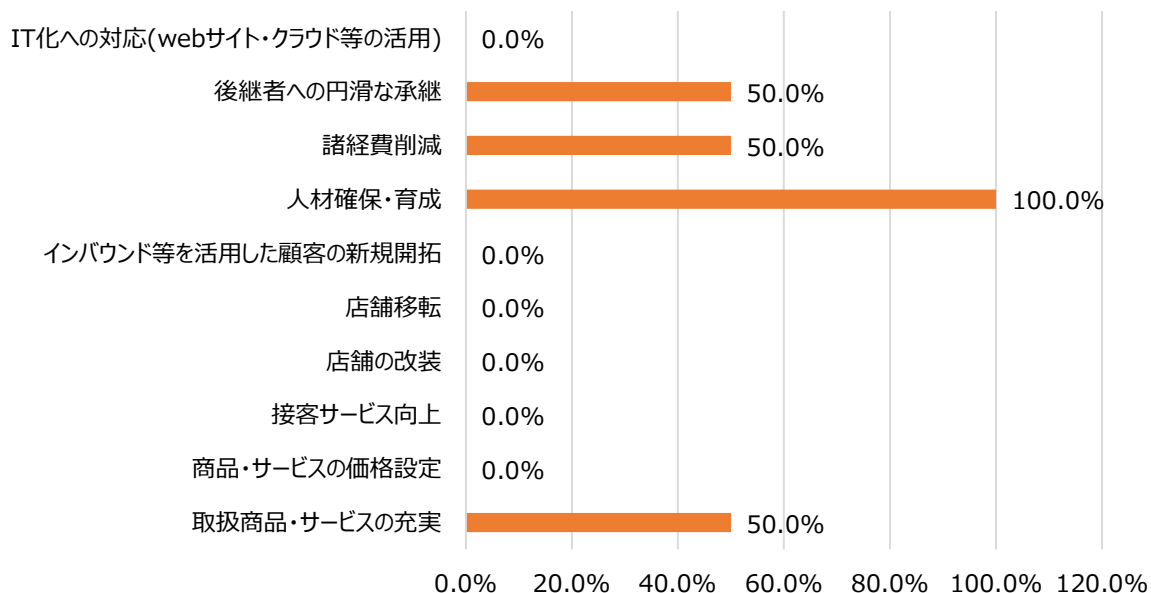
最近の経営上の問題点について



3 今後の卸売業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「人材確保・育成」が 100.0%と最も高く、「後継者への円滑な承継」「諸経費削減」「取扱商品・サービスの充実」が 50.0%と続いている。

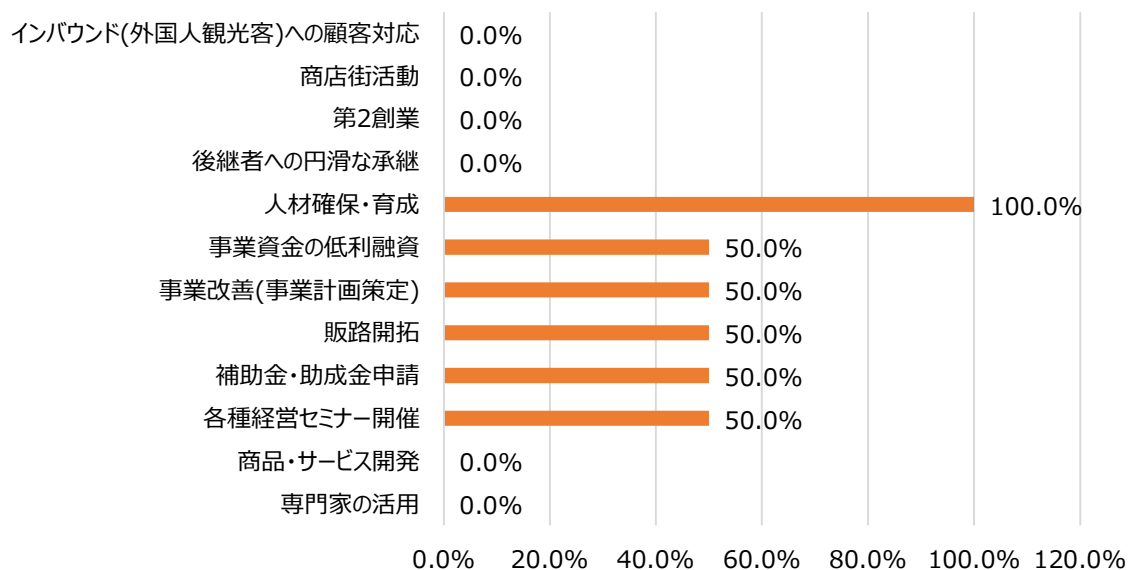
今後の経営課題について



4 今、卸売業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「人材確保・育成」が 100.0%と最も高く、「事業資金の低利融資」「事業改善（事業計画策定）」「販路開拓」「補助金・助成金申請」「各種経営セミナー開催」が 50.0%となっている。

今後、希望する支援・施策

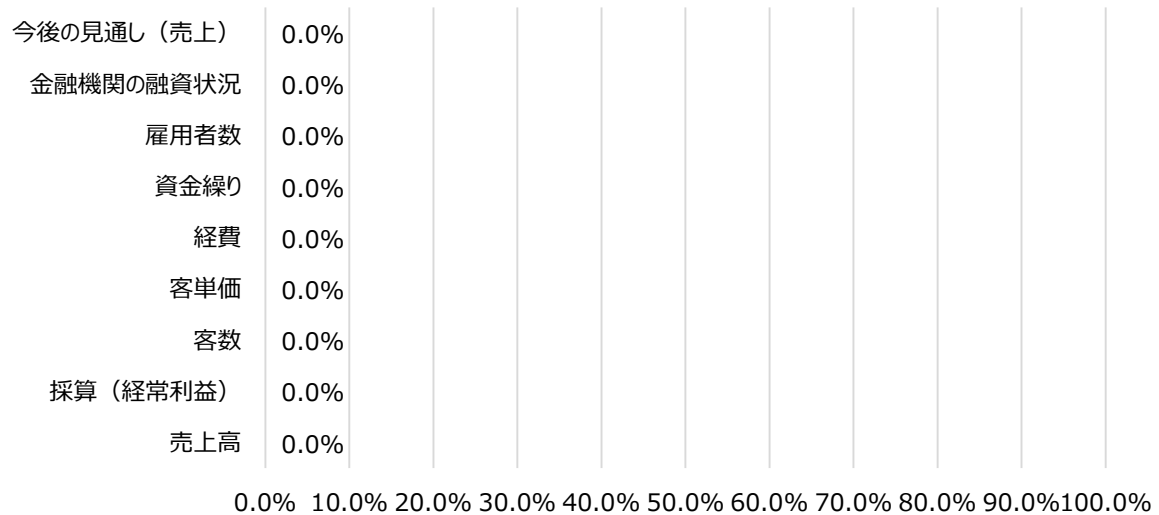


VII 飲食業の景況

1 飲食業の経営状況の指標

今回の調査では回答無しのため、すべての項目がゼロとなった。

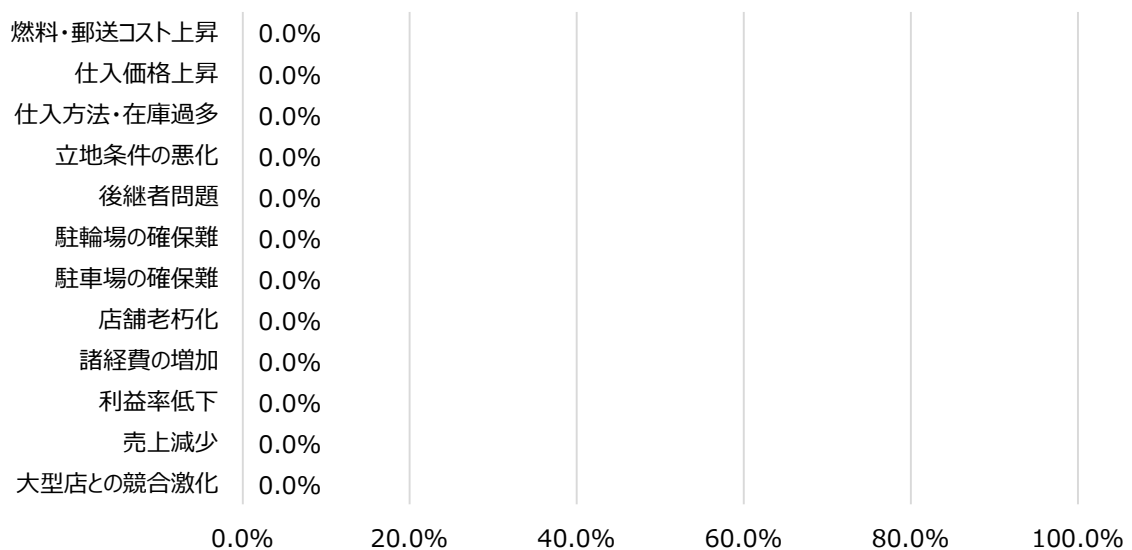
飲食業の経営状況の指標



2 最近の飲食業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

今回の調査では回答無しのため、すべての項目がゼロとなった。

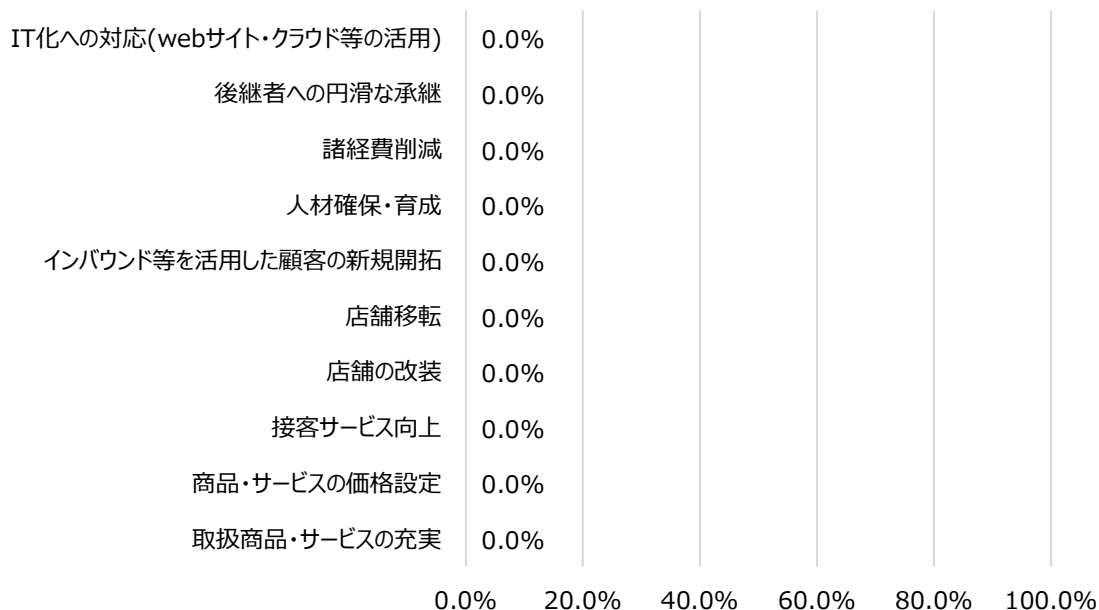
最近の経営上の問題点について



3 今後の飲食業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

今回の調査では回答無しのため、すべての項目がゼロとなった。

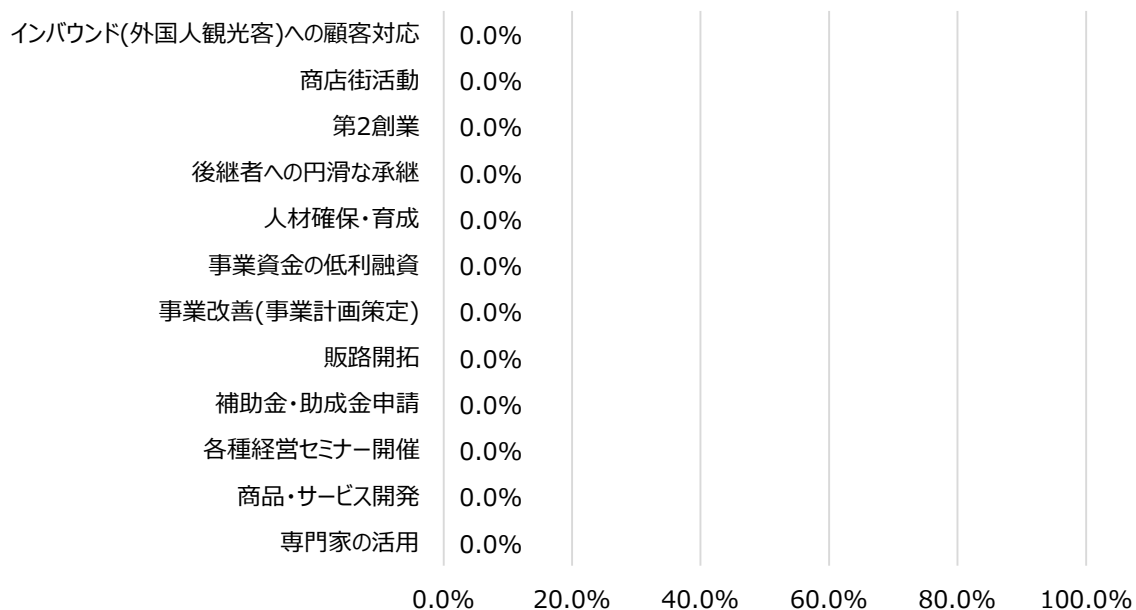
今後の経営課題について



4 今、飲食業が必要としている支援・施策(いくつでも)

今回の調査では回答無しのため、すべての項目がゼロとなった。

今後、希望する支援・施策

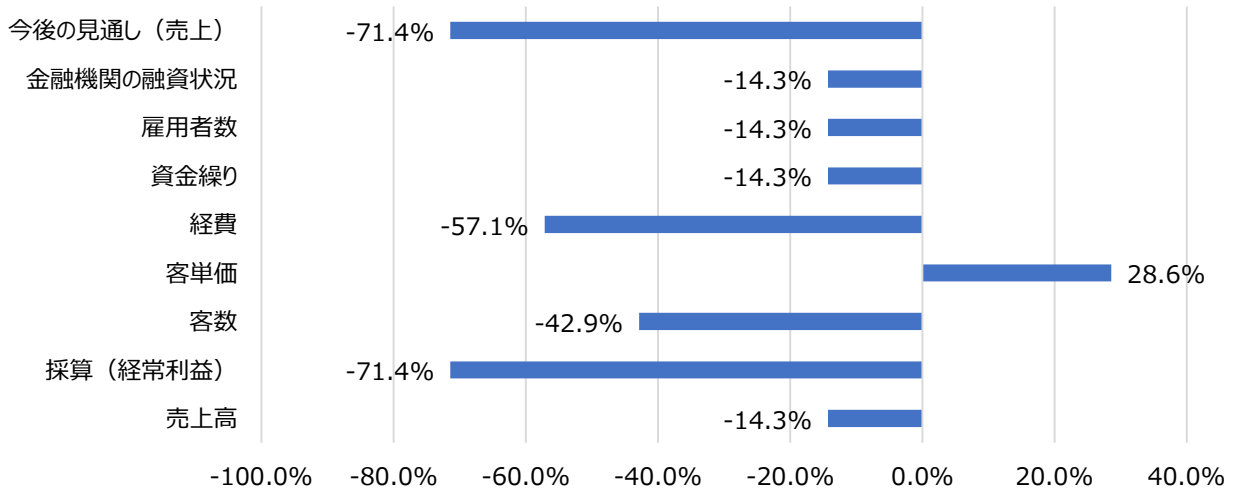


VIII サービス業の景況

1 サービス業の経営状況の指標

各種 DI をみると「客単価」の 28.6%を除き、すべての DI がマイナスとなり「今後の見通し（売上）」「採算（経常利益）」が最も低い▲71.4%、「経費」が▲57.1%、「客数」が▲42.9%と続いている。

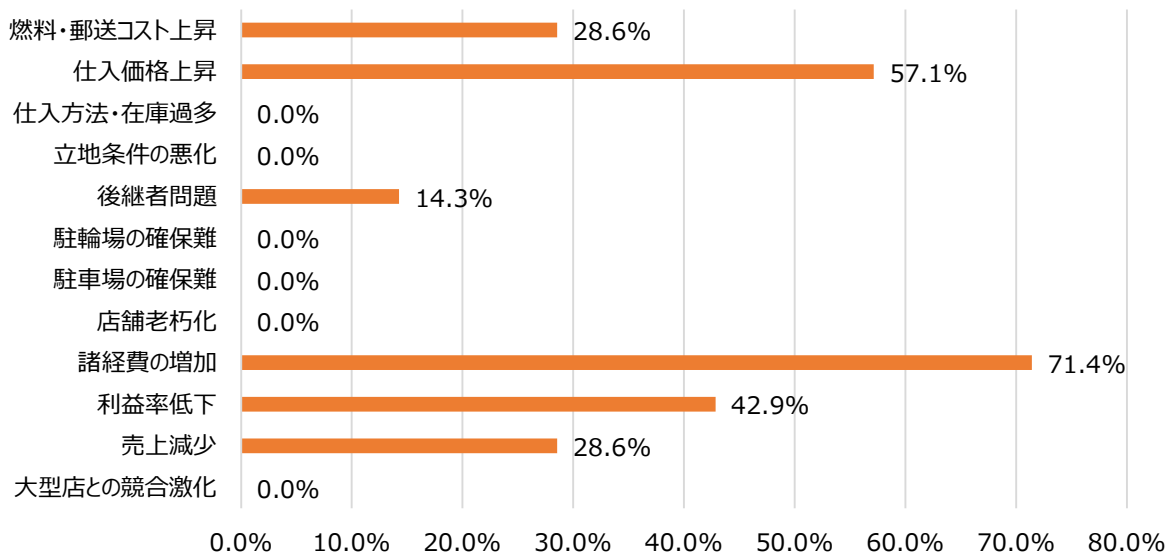
サービス業の経営状況の指標



2 最近のサービス業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「諸経費の増加」が 71.4%と最も高く、「仕入価格上昇」が 57.1%、「利益率低下」が 42.9%、「燃料・郵送コスト上昇」及び「売上減少」が 28.6%と続いている。

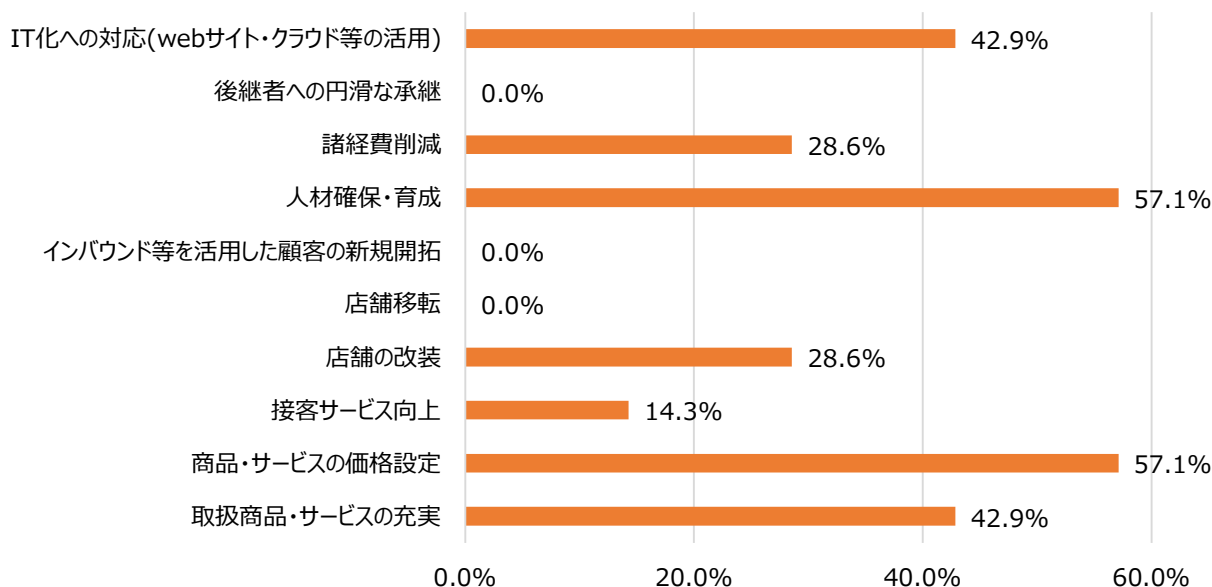
最近の経営上の問題点について



3 今後のサービス業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「人材確保・育成」「商品・サービスの価格設定」が 57.1%と最も高く、「IT 化への対応（WEB サイト・クラウド等の活用）」「取扱商品・サービスの充実」が 42.9%、「諸経費削減」「店舗の改装」が 28.6%と続いている。

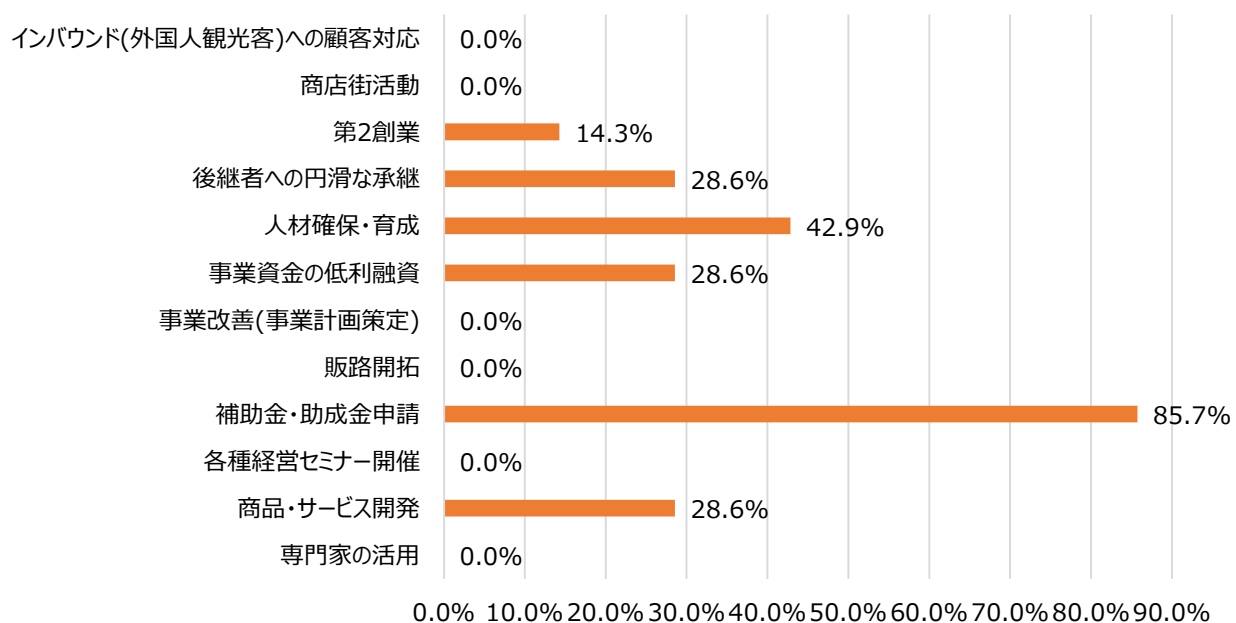
今後の経営課題について



4 今、サービス業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「補助金・助成金申請」が 85.7%と抜きんでて高く、次いで「人材確保・育成」が 42.9%、「後継者への円滑な承継」「事業資金の低利融資」「商品・サービス開発」が 28.6%、「第 2 創業」が 14.3%となった。

今後、希望する支援・施策

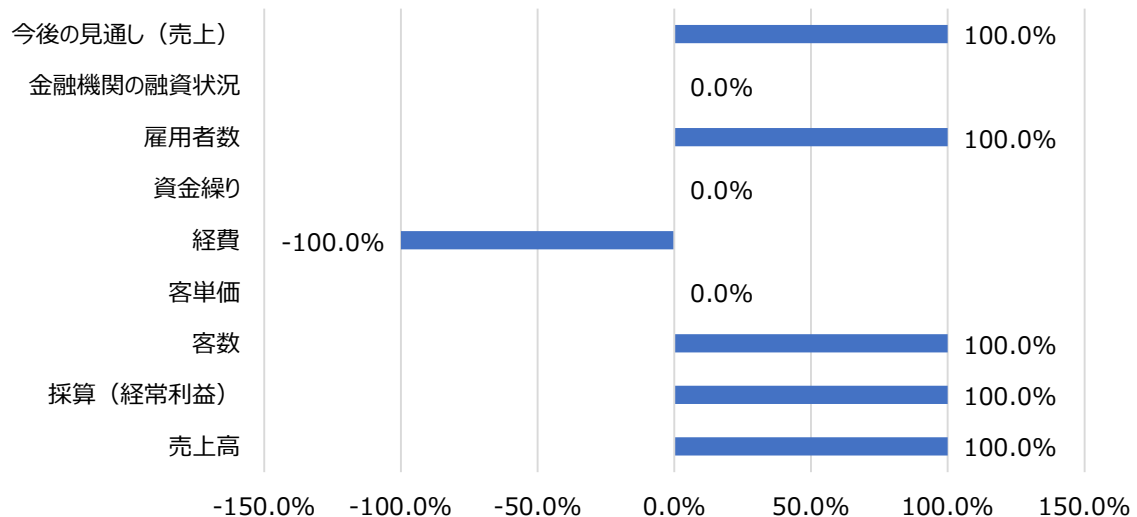


IX 観光業の景況

1 観光業の経営状況の指標

各種 DI をみると「経費」の DI が▲100.0%と唯一のマイナスとなり、「今後の見通し（売上）」「雇用者数」「客数」「採算（経常利益）」「売上高」が 100.0%となっている。

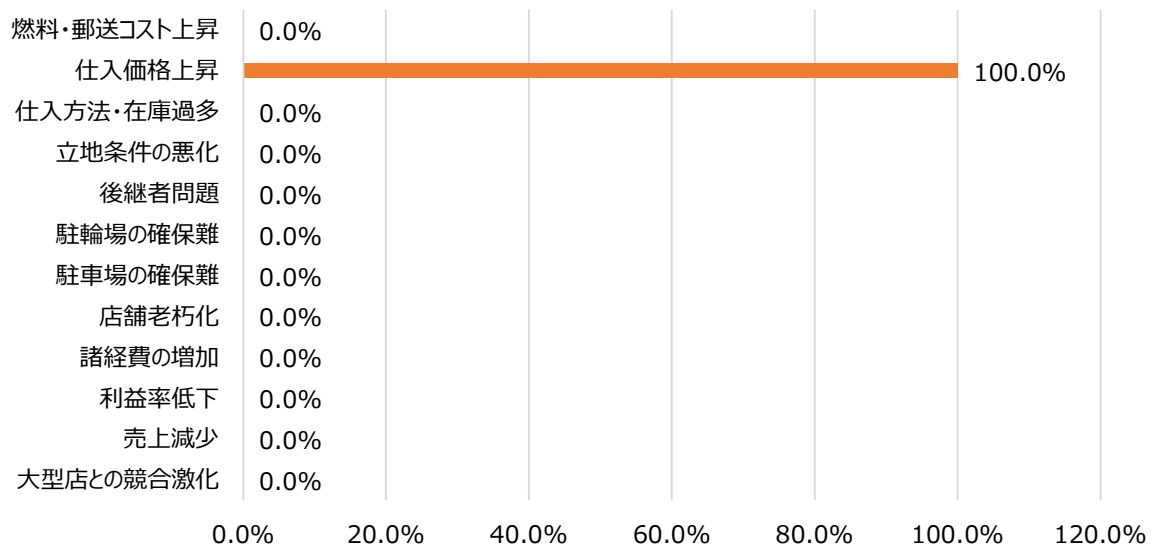
観光業の経営状況の指標



2 最近の観光業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「仕入価格上昇」が 100.0%であった。

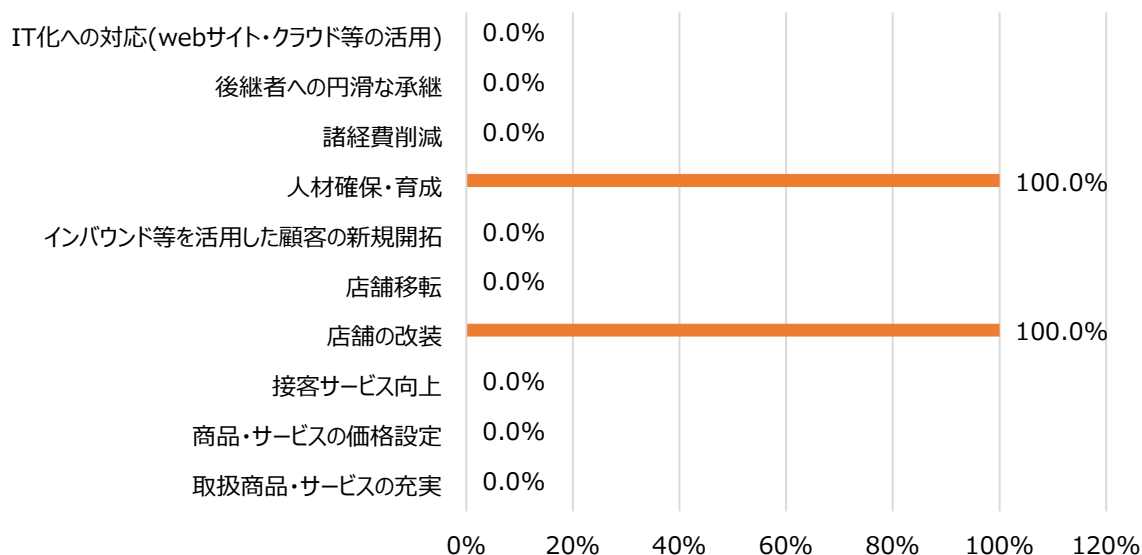
最近の経営上の問題点について



3 今後の観光業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では「人材確保・育成」及び「店舗の改装」が 100.0%であった。

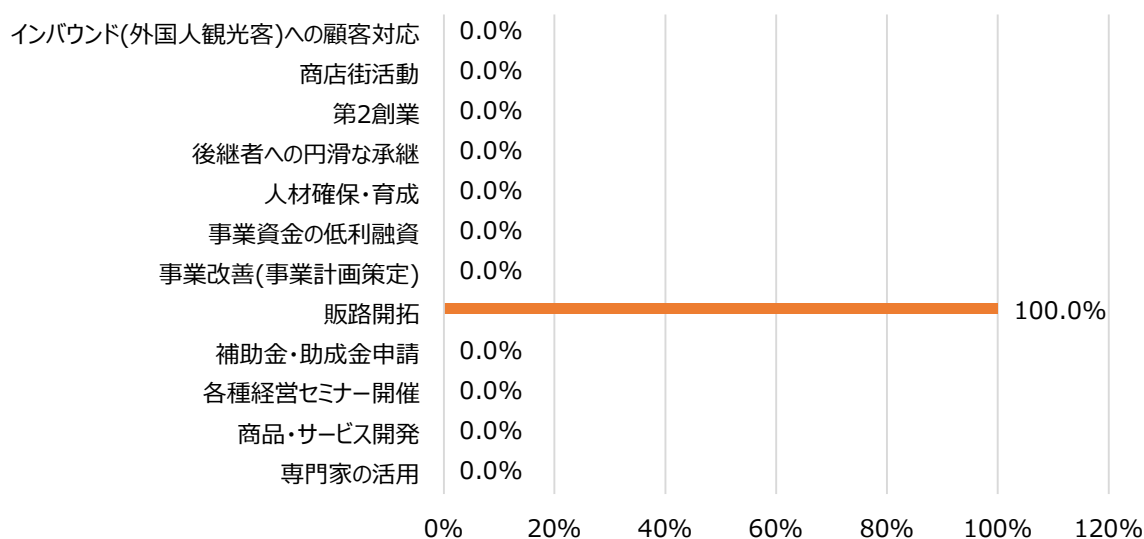
今後の経営課題について



4 今、観光業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では「販路開拓」が 100.0%であった。

今後、希望する支援・施策

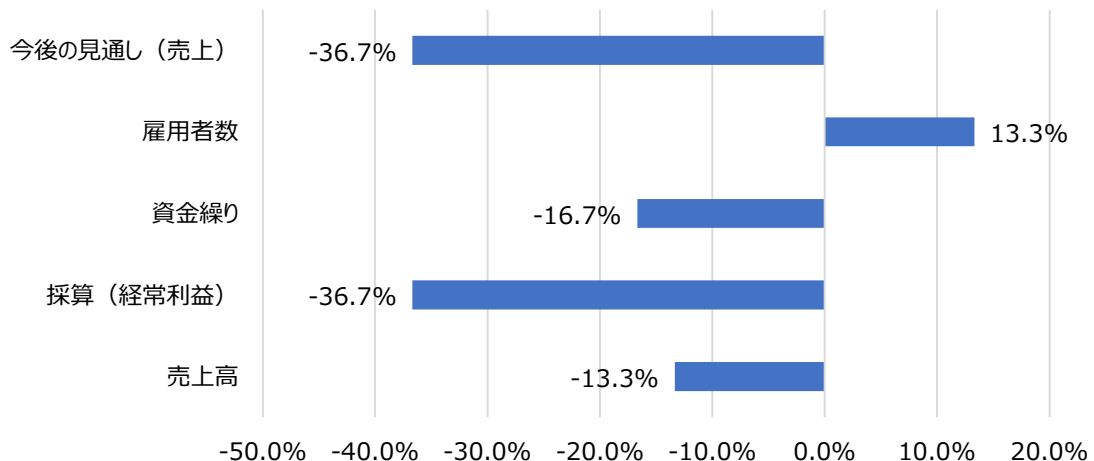


まとめ

1 景気動向の概要

館山市の全業種の景気動向をみると「今後の見通し（売上）」「採算（経常利益）」のDIは▲36.7%、「資金繰り」が▲16.7%、「売上高」が▲13.3%となっており、「雇用者数」の13.3%以外はすべてマイナスとなっている。

全業種の経営状況の指標（館山市）



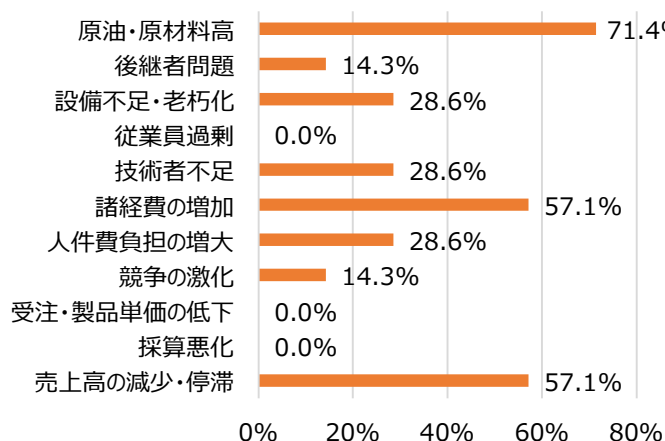
業種別にみると「建設業」「小売業」「サービス業」で売上高DIがマイナス、「製造業」でプラスマイナスゼロ、「卸売業」「観光業」でプラスとなった。また、採算DIは「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」でマイナス、「卸売業」「観光業」でプラスとなった。（※飲食業は無回答）

2 最近の経営上の問題点

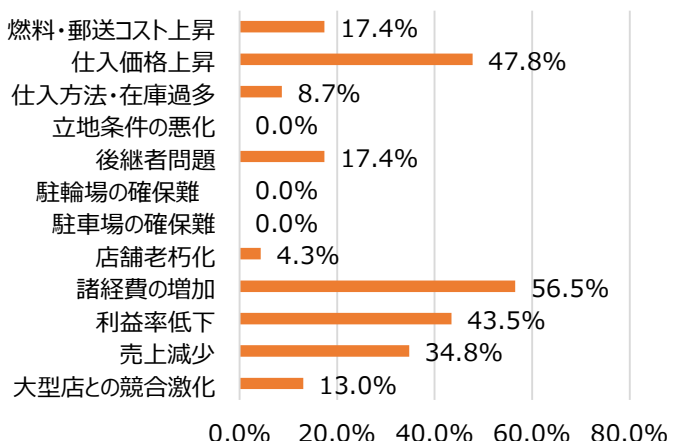
工業関連企業（製造業・建設業/左図）の経営上の問題点をみると、「原油・原材料高」が最も割合が高く71.4%で、「諸経費の増加」「売上高の減少・停滞」が57.1%と続いている。また、商業関連企業（小売業・卸売業・飲食業・サービス業・観光業/右図）の経営上の問題点をみると、「諸経費の増加」が56.5%と最も高く、「仕入価格上昇」が47.8%と続いている。（※飲食業は無回答）

最近の経営上の問題点

工業関連企業



商業関連企業



3 今後の経営課題

工業関連企業の経営課題をみると、製造業は「売上高の確保」が 100.0%と最も高く、「設備投資」が 50.0%と続いている。建設業では「売上高の確保」が 100.0%で最も高く、次いで「人材確保・育成」が 66.7%となっている。両業種において「売上確保」への課題感が強い。

また、商業関連企業の経営課題をみると、小売業は「取扱商品・サービスの充実」が 61.5%と最も高く、次点は「人材確保・育成」の 53.8%だった。卸売業では「人材確保・育成」が 100.0%、「後継者への円滑な承継」「諸経費削減」「取扱商品・サービスの充実」が 50.0%と続き、サービス業では「人材確保・育成」「商品・サービスの価格設定」が 57.1%、「IT 化への対応（web サイト・クラウド等の活用）」「取扱商品・サービスの充実」が 42.9%となり、観光業では「人材確保・育成」「店舗の改装」が 100.0%であった。（※飲食業は無回答）

本調査結果において、建設業や小売業、卸売業、サービス業、観光業をはじめとする多くの業種で「人材確保・育成」が経営課題の上位に挙げられており、依然として各業種で労働力の不足や育成が大きな懸案事項となっている。

また、工業関連企業においては「売上高の確保」、商業関連企業では「取扱商品・サービスの充実」を課題とする企業が多く、新規顧客の開拓や既存顧客維持を図ることが重要である。

4 必要としている支援・施策

工業関連企業の必要としている支援・施策をみると、製造業では「販路開拓」「補助金・助成金申請」が 50.0%、建設業では「人材確保・育成」「補助金・助成金申請」「各種経営セミナー開催」が 66.7%で、「補助金・助成金申請」に高い需要がある。

商業関連企業の必要としている支援・施策では、小売業で「事業資金の低利融資」が 58.3%、次いで「補助金・助成金申請」が 50.0%で、卸売業では「人材確保・育成」が 100.0%となっている。サービス業では「補助金・助成金申請」が 85.7%と最も高く、「人材確保・育成」が 42.9%と続いている。観光業では「販路開拓」が 100.0%だった。（※飲食業は無回答）

各業種で「補助金・助成金申請」「人材確保・育成」「販路開拓」に対する支援を望む声が多く、IT 化を含めた人手不足解消や、新たな販路を開拓するためにも、資金面での支援・施策を必要としていることがわかる。

当所としては、これらの課題解決に必要な各種経営支援に取り組んで行く。